

# 学校法人湘南ふれあい学園 平成 30 年度 事業計画

## 目 次

I 事業計画の概要	P 2
II 主要な重点事業計画	P 6
III 各学校の事業計画の概要	P 11
IV 財政計画	P 26
V 施設・設備計画	P 25
VI 生涯学習事業	P 29
VII 監査計画	P 29

## **I 事業計画の概要**

学校法人湘南ふれあい学園の建学の精神である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を基盤とした、人間の尊厳と他者への思いやりの精神は、本学園が運営する湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、下田看護専門学校、医療ビジネス観光情報専門学校、そして、幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の各校園における教育の礎となっています。

本学園は、母体である「ふれあいグループ」の教育部門として、「建学の精神に基づき、社会に奉仕する人材を育成する。」を目的に示しており、地域医療を基盤にした高度な知識・技術を有する医療人材、他職種との連携を図ることが出来る人材、そして、地域社会に貢献できる人材を育成するために、各校各部門が教育理念に基づき、具体的な教育方針に則り、教職員等の人事計画、財政計画、組織運営計画等を事業計画に基づいて実施する所存です。

### **理念**

『人を尊び、命を尊び、個を敬愛す』

その考えのもとに保健・医療・福祉・教育を担当しそして、社会へ奉仕する事をめざすものです。わたしたちは、すべての人々のしあわせに、今、役立ちたいと願っています。

- 1 やさしさと思いやりのある保健・医療・福祉・教育の実践
- 2 生命を全うしていただくための知識・技術の習得
- 3 その人らしさと個別性を尊重し敬愛す

わたしたちは、理念の実践者になります。

### **教職員の行動基準**

#### 1 使命

ふれあいグループの理念を基本として、地域の人々の幸せに役立つ保健・医療・福祉・教育を保障するために、専門職的で倫理的な医療と教育を行なうべく最大限の努力を尽くす。

#### 2 地域社会への貢献

ふれあいグループの医療と教育機能を地域の医療・教育体系に連携し、効率的な地域サービスの成果を挙げることに努める。

#### 3 研修と教育

教育者としての研修に励み、ふれあいグループとして提供できる医療教育水準の向上と後進の教育に努める。

#### 4 記録と守秘義務

記録を完備し確実に管理するとともに、職務上知り得た個人の秘密は厳守する。

#### 5 管理運営

学生中心の教育の心構えを堅持し、ふれあいグループが地域社会に必須の医療並びに教育施設として存続できるよう、公正で合理的な管理運営に努める。

## 事業基本方針

- 1 私たちは、PDC 活動により学校経営に全職員が参画し、さらなる発展を目指します。
- 2 私たちは、学生・園児に最適な教育サービスをタイムリーに提供します。
- 3 私たちはやさしさ、思いやりと気配りのある態度で仕事をします。

## 全教職員参加

- 1 PDC 活動の推進（部門・個人 PDC の精度向上）
- 2 安全管理体制の強化（委員会活動の活性、規程類の再点検）
- 3 FD・SD 活動、ふれあい研修活動の推進（授業内容、職務内容の改善による教育水準の向上）
- 4 業務改善運動の推進及び 6 S 活動の実践  
（業務遂行の効率アップによる時間外削減及び時間の有効活用、整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法の取り組み強化）

## 法人の概要

- 1 設置する学校（学校名・学部・学科・専攻等・開設年度）

学校名	学部学科専攻等		開設年度
湘南医療大学	保健医療学部	看護学科	平成 27 年
		リハビリテーション学科	
幼保連携型認定こども園 みどり幼稚園	1 歳児、2 歳児、3 歳児（年少）、4 歳児（年中） 5 歳児（年長）		昭和 24 年 <small>※平成 29 年より幼保連携型認定こども園</small>
茅ヶ崎看護専門学校	看護学科		平成 6 年
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	理学療法学科		平成 10 年
	作業療法学科		
	言語聴覚学科		
	社会福祉専攻科		
	介護福祉士実務者研修		平成 28 年
下田看護専門学校	看護学科		平成 16 年
医療ビジネス観光情報専門学校	医療ビジネス学科		平成 26 年
	観光学科		

2 学生・園児数・・・学校別

大学（学部・学科等、入学定員、編入学定員、在籍者数、H29年度卒業生数）

[湘南医療大学]

学部・学科・専攻等		入学定員	編入学定員 (3年次)	入学者数	在籍者数 H30.4.1				H29年度 卒業生数	
					1年	2年	3年	4年		
保健 医療 学部	看護学科	80	10	85	85	101	79	96	0	
	リハビリテーション 学科	理学療法専攻	40	0	43	43	46	41	41	0
		作業療法専攻	40	0	43	43	41	40	39	0
		160	10	171	171	188	160	176		

[幼保連携型認定こども園みどり幼稚園]

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数（入園者数） H30.4.1					H29年度 卒園生数
			1歳児	2歳児	年少 (3歳児)	年中 (4歳児)	年長 (5歳児)	
みどり幼稚園	—	218	7	10	57	57	69	72
合計		218	7	10	57	57	69	

[茅ヶ崎看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 H30.4.1			H29年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	80	240	82	84	81	71	76
合計	80	240	82	84	81	71	

[茅ヶ崎リハビリテーション専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 H30.4.1				H29年度 卒業生数 (修了)
				1年	2年	3年	4年	
理学療法学科	70	280	71	77	62	77	57	55
作業療法学科	30	120	21	21	26	21	18	13
言語聴覚学科	35	70	35	35	34			26
社会福祉専攻科	80	160	59	59	60			48
介護福祉士実務者研修	30	90	19	19				47
	245	0	205	211	182	98	75	

[下田看護専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 H30.4.1			H29年度 卒業生数
				1年	2年	3年	
看護学科	40	120	40	40	39	39	31
	40	120	40	40	39	39	

[医療ビジネス観光情報専門学校]

学科名	入学定員	収容定員	入学者数	在籍者数 H30.4.1		H29年度 卒業生数
				1年	2年	
医療ビジネス学科	40	80	18	19	29	102※
観光学科	40	80	84	85	64	
	80	160	102	104	93	

※平成 29 年度卒業生は 3 学科（医療ビジネス学科、観光学科、情報システム学科）で 102 名の卒業。

3 専任教職員数 学校別（H30年4月1日現在 教員・職員 計）

※大学のみ、教授 准教授、専任講師、助教、助手

	平成 30 年度現員（H30.4.1）		計
	教員	職員	
湘南医療大学	60	16	76
みどり幼稚園	25	4	29
茅ヶ崎看護専門学校	18	7	25
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校	22	10	32
下田看護専門学校	10	4	14
医療ビジネス観光情報専門学校	9	3	12
法人本部	2	11	13

[湘南医療大学]

学部	学科・専攻	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健 医療 学部	看護学科	5	7		7		5	1	9	1	1	7	29	
	リハビリテーション学科	理学療法 学専攻	6		1	2	2		2				11	2
		作業療法 学専攻	3		2	1	3	1		1			8	3
		14	7	3	10	5	6	3	10	1	1	26	34	

## II 主要な重点事業計画

### 1 重点計画の概要

(1) 学校法人湘南ふれあい学園の教育の方向性：

#### 1 教育力を高める活動

I 学園各校は、教育力を高め、学生の学習力や学力の質保証を達成させると同時に、学力の到達度の確認・点検を行うための活動として、FD活動を実践しています。FD活動を充実させるために、教員は、学生の学習力を引き出し、やる気を目覚めさせ、卒業目標(ディプロマ・ポリシー)にかなう最高の人材養成教育を行うと同時に国家試験に合格する教育を実践します。

II 教員は、担当授業科目においてカリキュラムポリシーに沿った水準を超える学力を達成するために情熱をもって教育し、学生が理解できるように教え方を工夫します。また、学生の毎日の勉強の習慣づくりを指導します。

#### 2 教員の資質を高める活動

1) 中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月28日)(抄)「2. これからの教員に求められる資質能力」において、教員は、不断に最新の専門的知識と指導技術等を身に付けていくことが重要となっており、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていることが以下に示されています。本学園も、その答申の趣旨に沿って、教員の資質を高める活動を実践します。

I 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

II 専門職としての高度な知識・技能

- ・ 教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
- ・ 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
- ・ 教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

III 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

2) 21世紀の大学像と今後の改革方策について-競争的環境の中で個性が輝く大学-(答申要旨 平成10年10月26日大学審議会)における教育方法等の改善の中、「授業の設計と教員の教育責任」を実践します。特に、本学園の教員は教室や実習室における授業だけでなく、授業の前提として読んでおく文献を指示する等学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与え、実際の現場で躓かないように実習前には学内でのシミュレーション実技を繰り返し指導するなど授業設計や学習指導内容を策定します。

### 3 学生の人間性を高める活動

- 1) 理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の実践できる学生を教育します。
- 2) 本学園は、人間性を高める教育活動として、湘南医療大学であれば、「総合教育科目」の科目群、看護・医療系専門学校であれば「科学的思考の基礎と人間と生活、社会の理解」の科目群において、人間形成のために必須な科目を学修し、心の成長につなげます。各校では、文学、倫理学など初年次教育にこれらの科目を履修することにより涵養され、医療従事者として必要な資質の形成を目指します。  
また、学生の積極性と社会性を涵養する教育の一貫として、学園全体で行うクリスマスキャロリングは、病院施設に出向き患者様に安らぎを与えるボランティア活動で、人間形成に大いに役立っています。社会に貢献し、人との繋がりを感じ、知見を広げることが将来の医療活動に大きな意義をもたらす活動として継続していきます。
- 3) 本学園は、ふれあいグループ病院施設と連携して、公開講座、保健医療福祉に関わる学園広報活動及びイベントを実施します。今後も、地域連携活動に参加し、地域の方々を支援する活動を通して社会貢献を行い、協力精神を学びます。

### 4 学生の将来につながる指導力の発揮

- 1) 教員は、医療従事者を目指す学生に、授業での教育の効果を指すだけでなく、どのような過程を踏んでその学生が学問的に、人間的に、成長していくかを考えて、勉強や生活に関するアドバイザーとして、学生の成長に貢献します。
- (2) 全学連携の教育改善活動 (FD/SD/PDC) の推進

#### ア 全学FD・SD活動

隔月に開催する全体研修会及び年2回開催の医療・教育研究会及び専門部会研究会を中心に、全学的に抱える教育課題(休学者・退学者の減少、国家試験等資格試験合格教育、休退学者防止の少人数制個別的学习支援、カリ

キュラム・シラバスの検討、個人研究成果、学生募集活動、幼児教育研修・研究等)を解決するためにFD/S D活動の研修・研究を推進し、その成果を発表する機会を有意義に活用して連携を強化する。

#### イ 全学PDC活動

中央教育審議会は「学士課程教育の構築に向けて」の答申において、「学士(※本学園では、大学のみならず、専門学校も含めて全学において)の水準の維持・向上のため」に、①学位授与の方針(DP)、②教育課程編成・実施の方針(CP)、③入学者受け入れの方針(AP)の三方針を実施する手法として「PDCAサイクルの徹底」を提唱している。

本学園では、PDC活動と称し、毎月、①学生募集②教務・学生支援③国家試験対策④6S活動⑤業務改善等の項目について、Plan(計画)・Do(行動)・Check(確認)を実施し、問題点や課題点の対策を行う。

### (3) 地域連携推進及び研究推進

#### ア 地域連携推進

①本学園全体の地域連携活動は、多様な地域貢献活動の円滑かつ計画的な実施と実践の質向上をめざしています。地域公共団体等自治体や地域諸団体との連携を検討し、地域に根差し、地域と共に歩む教育機関として推進します。

②地域公開講座の実施 ---地方自治体や地区自治会との連携事業---

- 1) 大学まつり/専門学校進学
- 2) 中学校職業体験受入れ
- 3) 中学生対象大学体験会
- 4) 地区住民の環境をモデルとした研究または実習 その他

#### イ 研究推進

##### ①個人研究

年度当初に個人研究計画書を策定し、その計画の下で研究を行い、年度末2月に開催されるグループの「医療・教育研究会」での発表に向けて、研究活動を推進する。

##### ②個人研究費の費用対効果と社会的説明責任

研究費は、学術研究の発展に使用されるものであり、公共性を有します。本学園では、研究費の目的とルールに従って、費用対効果を勘案しつつ公正・適正に執行する責務を負うため、平成31年度からの個人研究費の見直し、経費執行から研究成果に至るまで、社会的説明責任を果たせることができるように今年度に規程改正の準備を進める。

##### ③公的研究の推進

教員等研究者の研究倫理教育の実施、科研費応募のための説明会、研究不正防止研修の実施など、倫理教育を含めて競争的研究費の獲得について支援する。

##### ④共同研究の推進

大学研究者とふれあいグループ病院施設との共同の研究テーマを模索し、地域医療に貢献する研究活動を実施する。

#### ⑤ブランディング研究

地域で輝く教育機関をめざし、特色ある研究を基軸として、大学全体の独自色を大きく打ち出す研究テーマを検討する。

### (4) チーム医療教育の実践

ア グループ病院施設と連携を図り、年1回「チーム医療研修会」を実施する。将来、学生が卒業し、病院等施設において多職種連携業務を行う中で、医療職務上必要とされる知識、技術、教養を得ることを目的としているが、グループ各病院施設の実態に基づく医療課題解決のためにグループの全職員が共同して行う研修活動である。研修を通し、学生の成長に役立つ実践的な「卒前・卒後のチーム医療教育」に反映されるようにする。

イ 縦の教育（専門職としての高度知識技術の修得）と横の教育（多職種の理解、チームリーダーやマネージャーとしての能力育成）を充実させる。

### (5) コンプライアンスの徹底

ア 寄附行為及び各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各会議委員会を運営する。

イ 各校毎に理念・目標に照らして教育研究活動の状況を自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行う。

ウ 教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。

エ 学生指導記録や USB メモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。

オ 個人情報を含む職務上知り得た情報の管理・運用やSNSの適切な利用について徹底した注意喚起を行い、一層の職員の規律を高める。

## 2 人事計画及び組織

### (1) 人事計画

ア 各校の事業計画を達成するために資質の高い人材を学内外から活用し、全教職員が教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署に適正な人員を配置する。

イ 学園全体として、現在の人事評価に加えて、研究業績、教育業績、社会貢献等の詳細項目を踏まえた人事評価制度の策定を引き続き検討し、平成31年度までに運用できるように準備を整える。

ウ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（仮称）設置に向けて、文科省教員審査基準を踏まえた教授の確保を行う。

エ 湘南医療大学臨床医学研究所の事務職員を確保する。

## (2)組織

### ア 学園行動規範とPDC活動

昨年度に引き続き、本学園の行動規範に従い教職員の自己規律や倫理道德を徹底する。

また、早期に問題点・課題点を発見し、解決できる組織となるために、本学園グループで既に実施しているPDC活動を、より効果的に機能させる。

### イ 教授会等各校の会議

運営管理会議、教授会、学科会議、各校運営会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教学が連動して「教育の質の向上」を目指す。そして国家試験100%、休退学者0を目標に教育指導体制を整備する。

### ウ IR担当の設置(継続)

学園本部内にIR担当者を置き、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案を実施する。配置後は、大学、各専門学校が行っている大学ポートレートへの参入、教育内容・研究内容の開示、グループ関連病院施設等での実習施設情報等、ホームページを随時更新する。今年度は、学生・保護者等学園を支援する方々に、詳細可能な教育及び経営情報を提供し、これからの学園の目指す姿を提示し、学園教育への理解を深めてもらえるよう計画的に実施する。

## (3)教職員の人材育成

湘南ふれあい学園は、設置母体である「ふれあいグループ」の教育部門として位置付けられており、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念を基に、全教職員が優しさと思いやりのある保健医療福祉教育の実践、生命を全うしていただく為の知識・技術の習得、そして、その人らしさと個性を尊重し敬愛できる理念の実践者となることを目指しています。教育部会、大学部会、幼・保育部会の年間の様々な研修活動を通して、学園全体の「教育の質の保証」を高める人材育成を実施する。

## 3 募集・広報計画

ア 各校のアドミッションポリシーに基づき、湘南ふれあい学園の魅力（医療グループの教育機関であること、充実した奨学金制度を所有していること等）を発信し、求める学生像（学力、意欲、活動実績等）を明確にアピールして入学定員を確保する。

イ 昨年度に引き続き、各校とも中学生・高校低学年生を対象とした『早期から医療系への職業意欲を高める』体験イベントをグループの関連病院と連携して実施する。

ウ 各学校の特性を活かし、地域連携や高大連携等を念頭に、入学生の質の転換を図ることができ入試活動を推進する。

- ・入学生の質を落とさないAO入試、推薦入試制度の強化
- ・入試制度の変更による「より受験しやすい」制度に移行する。

- ・湘南医療大学の教育研究機関としての特色と看護・リハビリ専門学校の専門職業教育の特性を生かした入試制度を設けて、学園の教育施設の全てが発展できる体制を整える。
- ・湘南医療大学、2看護校、リハ専門学校の社会人を対象とする広報活動を見直し、社会人が入学しやすく、入学意欲が湧くような入試制度や入試体系を設定する。

#### エ 実行力のある広報活動

- ・face to face で親身に相談できる雰囲気と理念にもとづく温かいオープンキャンパス・学校説明会・体験入学が実施できるように全職員が参加する。
- ・将来の職業(看護・リハ等)がイメージでき、理解できる模擬授業や演習等の実施。
- ・直接受験志願者と対話できるガイダンス活動への積極的な参入。
- ・WEB広告、スマートフォン、ホームページ等の電子広報活動。
- ・受験生が望むタイムリーな学内教育活動及び入試情報の提供。
- ・ふれあいグループ各施設と連携した学園ブランド力を地域に発信する活動。
- ・通学圏内(神奈川・東京・静岡)の学生を確保するために高校訪問を積極的に行い、高校教員との連携を強め、教員向けの説明会の充実や細やかな対応の実施。
- ・接触者数の確保目的に、参加者10%増を目標とするガイダンスや個別面談の実施。

### Ⅲ 各学校の事業計画の概要

#### 1) 湘南医療大学

##### 平成30年度の基本方針

##### ○学部の特徴である3つの教育実践

学部の特徴である次の3つ事柄について見通しを持って取り組んでいく。

##### ① 高度な専門知識と技術教育

学位授与の方針、教育課程の編成と一体化し、総合教育科目から専門科目までを学生が体系的に科目を履修できるように配置し、看護師およびリハビリテーションの専門職として実践するにあたり、必要な知識・技術を身に付ける。

##### ② 質の高いチーム医療教育

医療チームの構成員が互いに協力して、患者を中心とした総合的で良質な医療サービスを提供することが重要となった。患者・家族とともにより質の高い医療を実現するためには、個々の医療スタッフの専門的知識及び技術の進歩を土台としながら、多職種の協働(チーム医療)を通してこれらを再統合していくことが必要であり、そのための人材の育成を行う。

##### ③ 地域医療の充実

地域実習（臨地実習・臨床実習）体験を通じた実践的教育をカリキュラムに反映させ、在宅生活者の多様なニーズに適切に応え、且つ社会の変化を適切に判断し、行動することで地域社会に貢献できる看護師、理学療法士、作業療法士を養成する。

## 平成30年度の重点目標

次の重点17項目に取り組む。

### ①理念の実践

湘南医療大学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」ふれあいグループ統一の理念です。大学はこの考えの基に社会に貢献し、世の中の全ての人々の幸せに役立つスペシャリストを養成する事を目的としています。この理念は「人間を尊重する事。やさしい思いやりの心で実践する事。」「生命を尊重する事。医療人として命を全うする為の高度な知識と技術の取得に一生涯励み、そして、患者の生活の質クオリティオブライフの向上を目指す実践者と成る事」「個性の尊重、その人らしさを尊重し、個別的に対応する事。自分以外の一人ひとりの個性と能力を尊重する行動を取る事」を意味します。全教職員と学生が、湘南医療大学の理念の実践者となるように努力していく。

### ②国家試験対策

本学では、第一期生が初めての国家試験を受験する。そのために受験対策講義や親身な個別指導などを行うために国家試験対策委員会を設置し、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の各国家試験合格のため、教員が一丸となり特別演習、ゼミ、対策講義など万全の体制でサポートする。

#### ・看護学科

大学教員による論理的な対策講義並びに強化支援学生に対する補講、模擬試験、学内模擬試験を計画して毎月実施し、個々の学生の弱点箇所(科目・領域)を教職員で共有・データ化し、反復学習など適切な指導を実施する。また、国家試験対策予備校講師を有益に活用し、「徹底した受験対策講義」を専任教員の指導と両面で行うことにより、大きな相乗効果が期待できる。これらの受験対策が学生にとって、学科で身につけた高度な専門知識が実際の国家試験問題ではどのように役立つかを理解できるように指導しつつ、模擬試験、対策講座を1年間通じて徹底して実施して、国家試験全員合格を目指す。また、学生の理解度と進捗状況については保護者にも伝え、学生・保護者・大学の三位一体となった指導体制を構築する。

- ・「看護師国家試験 過去問題」(3回)の学修
- ・ 模試試験(各種業者)の受験(6回)後の教員による指導
- ・ 業者による集中講座の実施 15日間
- ・ クラス(レベル分け・少人数)別国家試験対策学習会

#### ・リハビリテーション学科

- ・国家試験対策は最重要と位置づけ、臨床実習期間中も国家試験小テストを連続的に実施し、8月以降は毎月3回の模擬試験を実施し、国家試験受験申請の12月からは全国模試にも参加する体制をとる
- ・国家試験に関する理解度向上の支援教育は、理学・作業療法の各専門領域ごとに専任教員が講義を頻回に実施、また成績不良学生には早めにゼミ形式で個別教育を図り国家試験力を高める
- ・学生の国家試験の理解度と進捗状況については保護者にも伝え、学生・保護者・大学の三位一体となった指導体制を構築する
- ・国家試験対策は、4年生の担任と専攻の国家試験対策教員との三者が中心になり、国家試験対策の遂行と振り返り、個別指導の調整をはかる
- ・学科長と両専攻長が軸となって、リハビリテーション学科としての国家試験の支援体制の任を務める

### ③ 「チーム医療」教育

本学の3つの目標の内の一である「チーム医療に貢献できる医療従事者の養成」により、4年次後期に「チーム医療論」を2学科合同で実施する。卒業後に看護師及びリハビリテーション従事者として、臨床現場で「チーム医療」を実践するために、看護及びリハビリテーションの各領域における「チーム医療」への貢献例等の内容を含むカリキュラムを組む。

### ④ 研究推進及び地域連携

大学として、研究による医療従事者教育の質の向上と地域医療への貢献を行うため、研究推進室が中心的役割を果たしていく。また、湘南医療大学として地域やふれあいグループの医療従事者との交流を図り、医療従事者教育の質の向上のための研究に参画していく。

また、地域連携推進室において、大学の教育研究資産を活用して、地域の医療現場の課題解決に資する卒後研究や地域住民を対象とした公開講座などの実施に参画する。また、学生のボランティア活動等の課外活動による地域・社会貢献への取り組みを積極的に支援する。

今年度は、平成31年度の開始を目標に本学の特色を活かし、大学のヴィジョンを反映させて保健医療学部全体で実施する主な研究及び地域貢献活動(地域の抱える課題)の「テーマ」を検討する。

#### 公開講座/出前授業

- ・公開講座は、年9回(副学長1回、学部長1回、看護学科教員2回、リハビリテーション学科教員4回、学長補佐1回 or 研究所1回)実施を予定している。
- ・広く地域住民の参加も対象に含めた地域連携講座を夏から秋にかけて実施を予定している。
  - ヨコハマ大学まつり(横浜市)
  - わくわく健康フェスタ
  - せやこども大学(横浜市瀬谷区)
  - 生涯学習フェア(かながわ大学生涯学習推進協議会)

戸塚区公開講座（横浜市戸塚区打診）

・高校生に医療分野への進路選択の一助となるよう依頼を受けた出前授業(24校予定)を実施する。

### 職業体験

中学生(近隣中学5校予定)に対して、将来の個々の夢や希望の実現に向けて職業について考え、働くことの意義や職業の内容の理解等を深めながら、自分の生き方について考えるきっかけを与えることを目的に、グループの病院施設医療従事者と連携し、実際の現場を体験しながら、医療に関わる職業を知ってもらい、自分と他者を理解し、医療人の講話を聴いて、進路や適性の理解を促す。

## ⑤ 国の大学行政の方向性を見定め、教員・事務の連携を図り、大学運営を行う。(継続)

本学は私立大学等改革総合支援事業の対象とならないものの、私立大学等改革総合支援事業に示されている施策(タイプⅠ・Ⅱ)を本学の運営に反映させる。

タイプⅠ「建学の精神を生かした大学教育の質向上」の事業では、建学の精神である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づいた個性・特色豊かな教育を行い、地域に多様な人材を輩出することを目的とする本学の担う役割は大きいと考えている。

教育の質を高める(学生の主体的な学修の学習の充実等)大学の運営・教学部門の改革指針となり、組織的・体系的な取り組みに必要不可欠な事業項目である。本学は、大学完成年度に全ての項目をクリアし、その成果を公表できるように、学内一体となって継続的に実践していく。

タイプⅡ「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」の事業では、本学の特色であるチーム医療ができる人材を養成する大学として横浜市や東戸塚地区とどのように連携し、地域社会と連携した地域課題解決のための教育研究プログラムを構築するための検討を行う。地域課題解決に資する健康プログラム開発、地域における救急蘇生トレーニング、高齢者の生活習慣把握、地域の食育・栄養支援、地域の看護師の実践能力養成、地域の健康支援事業等など、地域連携推進室等において、地域及び教育の発展維持のためにできることを実践する。

## ⑥ 授業評価の結果を生かして学生に理解できる授業の実施

授業終了時に「学生による授業評価」を行い、学生の理解状況を教員が次の授業に生かせるようなリフレクションペーパーを作成する。関連科目の担当教員間で情報交換を行い、無用な重複を避け内容を精選する。なお、授業展開においては学生の理解状況を確認しながら進める。

## ⑦ カリキュラム評価

設置時のカリキュラムで学んだ学生は到達目標でもあるディプロマポリシーに掲げた能力が身に付いたか、学修の順序性や教授内容の難易度は適切であったか等カリキュラム評価を行う。完成年度を迎える時期まで学生・教員の両方を対象にカリキュラム評価を実施し問題点を明確にできるように評価のあり方を検討しながら進める。

## ⑧ FD・SD研修

全体研修会(2カ月に一度)を有効に活用して平成30年度(大学4年目)のFD計画及びSD計画を着実に履行していく。また、医療・教育研究会では、教育研究力の向上を目的に教員の研究活動の成果の発表の場とする。

### FD

- ・自己点検・評価に関するFD研修
- ・学生による授業評価と結果の公表
- ・教員相互の授業参観と評価
- ・臨床実習指導方法に関する講習
- ・教育方法改善検討会
- ・他大学の教育方法の伝達
- ・看護教育におけるFDマザーマップによる活動
- ・看護学教育コア・カリキュラム
- ・リハビリテーション学科カリキュラム改正(指定規則改正による)

### SD

- ・本学APに基づいた募集・広報活動
- ・2020年大学入試改革の研究
- ・マネジメント/リーダーシップ能力向上
- ・時間外業務削減・業務効率化
- ・教学支援研究
- ・業務領域の知見獲得研究

## ⑨ 自己点検・評価の実施

認証評価機関である「日本高等教育評価機構」の認証評価項目等に準じに、平成29年度(前年度)の活動状況について自己点検・評価を行う。

## ⑩ チューター制度・担任制度

看護学科では、1人の教員が1名程度の学生をサポートする「チューター制度」を、また、リハビリテーション学科では、担任制度を設けて、1クラス2名の担任及び副担任を配置して、履修計画から修学指導、学生生活相談などにきめ細やかに個別で対応し学生の4年間の成長をサポートしていく。

## ⑪ オフィスアワー

学生と教員のコミュニケーションの充実の一助であるオフィスアワーを活用し、設定時間帯に学生からの授業・履修内容等に関する質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路などの個人的な相談も、専任教員が親身に相談に対応していく。

## ⑫ 学修支援

総合教育科目は、理解できるまで行う丁寧な授業で専門科目を学ぶ上で大切な基礎学力をしっかりと身につけさせることを目的とする。そのために、新入生の入試等の力で基礎学力を見極め、個別の学修支援に役立て、また、小テストなどの反復問題練習や国家試験の基礎的な学力問題も解かせることも行い、早期から計画的な国家試験受験対策を実施する。

## ⑬ 自律的な学生を育てるための取り組み

知識注入型の授業で学生が受け身にならないよう、グループワーク、ディベート、プレゼンテーションなど学生参加型の授業を取り入れ、学生が学んだ知識を活用することの喜びや充実感を感じられるようサポートする。また、教員・学生間のコミュニケーションは学習意欲を高めることから、学生との関わりを大切にするための施策を各委員会が連携協力し実施していく。

医療人としての道徳心を持った人材の養成に努めると共に、マナー教育にも力を注ぐ。

## ⑭ 人間を全人的に見ていく力を育てる取り組み

臨床実習では、全人としての人間に目を向ける力を育む教育体験が行えるよう、事例を深化させる。

## ⑮ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（仮称）申請及び認可

平成31年4月の大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程（定員12名）設置に向けて文科省に設置申請書を提出し、審査を経て認可を受ける予定である。保健医療に関わる高度専門職業人を養成する目的に開設する。開設準備として、授業科目等教育課程の編成準備、施設整備を行い、学生確保に向けて活動する。尚、当該研究科に助産師国家試験受験資格の助産学領域を設け、助産師養成（4名）を行う計画である。

## ⑯ 湘南医療大学認定看護師研修センター 開設

平成30年4月に、認知症者とその家族の支援に関する最新の知識と技術を習得するなどの目的に認定看護師研修センター認定看護師養成課程（認知症看護分野 定員15名）を開設する。認知症者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアでき、他職種と協働して提供できる看護師を育成する。

## ⑰ 湘南医療大学臨床医学研究所 開設

### 2) 茅ヶ崎看護専門学校

#### 平成30年度基本方針

目標1. 教職員は教育者としての自己の資質を高め、その役割を遂行する。

- 1) 教育の本質を見極める思考を深化させる。
- 2) 学修者のモチベーションを高め、学習意欲を維持することで卒業まで学び続けることができる学生を育てる。
- 3) 学修者にとって魅力ある教授方法を高めることで、「学び」を楽しむことのできる学生を育てる。
- 4) 日々の教育実践の評価を通し、国家試験合格を確実にする学力の向上を図る。

- 5) 学生同士が愛情・思いやりを持って他者に向き合えるように慈しみを持って寄り添う。

目標 2. 教職員は看護学の専門家としての研究的能力を高める。

- 1) 自分自身の専門性を高めるために研究的視点を深める。
- 2) 学会・研究会に参加し、専門分野の研鑽に努める。
- 3) 自己の領域の中から研究テーマをひとつ挙げ、研究計画を構築できるよう準備する。
- 4) 教員は学生に対し、「学ぶ姿勢」について自己をもって示す。
- 5) 研究テーマを追求するため、学会発表等を通して、他者との交流を持つ。

### 平成30年度の重点目標

- 1) 様々な背景を持つ入学生に対し、「支援する」「育てる」意志を持ち、教職員一丸となり、どんな困難をも乗り越えられる学校運営を目指す。
- 2) 入学時の動機づけが在学中3年間を通しての態度の根幹となる。教職員は入学時の動機づけを学生に対し、指導・支援を行い、良い習慣を身に付けるよう導く。
- 3) 1年次より国家試験対策を計画的に実践し、基礎学力を確実に向上させる授業展開し、100%合格を目指す。
- 4) 学生がふれあいグループへ就職する意思を持てるよう関わり、「グループへ就職をする」伝統を継続させる。
- 5) 多くの学生がふれあいグループ奨学金を活用し、安心・安定した学生生活を送れるよう支援する。
- 6) 学生の生活態度の把握と指導を行い、休退学者0名を目指す。また、看護師になるという目標を常に意識させ、学ぶことの楽しさ、看護を行うことの喜びを感じる教育を実践する。

### 3) 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

#### 平成30年度基本方針

学校目的（本校のビジョン）をもとに各教職員が行動計画を実践し、学生はもとより保護者や卒業生にも信頼される学校運営を推進する。

また、教職員の力量を向上することはもちろん、学生に対しては、生活指導を充実することにより、学習習慣を確立させるとともに、課題解決力や省察力を高めることを推進する。

- 1) 教職員一人ひとりが学校運営に積極的に関わり、気持ちの揃った教職員集団を実現する

学校力を向上させ「ふれあいグループ」にとって有益な人材を養成するため、教職員は共通の問題意識を持ち、「学生のためにできることは何でもやる」という意識で積極的に業務を遂行する。

- 2) 学生への支援プログラムを充実する

学習習慣を身に付けさせるとともに、ヒューマンスキルの向上をも目指した生活指導を充実することも目標として、「徹底的に学生の面倒をみる」というスタンスで、必要なプログラムを工夫し展開させる。

- 3) 活力ある学校づくりを推進する

リハビリテーションに関連した教育活動や行事を増やし、学生や教職員が多くの人々とふれあうことにより、医療・福祉情報の発信基地として、地域社会に信頼される教育機関を目指す。

## 平成30年度重点目標

### <教務課・事務課共通 重点目標>

- 1) 学生募集の強化
  - ・本校の特徴をわかりやすく伝え、高校生により選ばれやすい学校説明会や見学会の運営方法を検討する。そのため、今まで以上に教職員全員が、連携を強化して運営・展開する。
  - ・医療グループ内の学校であり、即戦力として活躍できる特色をアピールした学生募集活動を展開する。
- 2) ふれあいグループとの連携強化
  - ・医療グループをバックボーンとした学校の特色を活用し、地域社会との連携教育の一環として従来展開している小・中学生に対する上級学校の説明会などにふれあいグループの病院見学を導入し、医療の重要性等の正しい知識を根付かせる活動をふれあいグループと共に展開する。
- 3) ふれあいグループへの就職希望者の増大
  - ・ふれあいグループの理念を共有する本年度卒業生の8割が、グループに就職できるように、定期的な交流活動や情報提供活動を行なう。
  - ・ふれあい奨学金の受給希望枠や奨学金の内容を変更して、定員枠の受給者を確保する。

### 4) 下田看護専門学校

#### 平成30年度基本方針

- 1) 少子化現象および大学への進学が進む中においても尚、学生数の定員を確保する。
- 2) 過疎化の強い伊豆地域が将来的に看護師の充足に繋がるような長期展望を持って優秀な学生の確保に取り組む。
- 3) 教育内容は、改定カリキュラムの主旨に沿って、科学的看護実践力を高めること、コミュニケーション能力をつけること、医療安全のスキルを身に付ける等を柱とする。
- 4) 本校の特徴としている「下田看護専門学校国試サポートプログラム」をさらに充実した内容へと変化させた学習支援体制とする。
- 5) 退学者の減少をめざし、40人が揃って卒業し、揃って就職できるよう指導する。
- 6) ふれあい奨学金の推奨に努め、グループ内病院・施設への看護力充実の一役を担う。
- 7) 教員の定員を確保して教育活動の安定化を図る。
- 8) 湘南ふれあい学園の禁止事項を中心にした医療人としての道徳、マナー教育の充実
  - ① 学校敷地内での全面禁煙
  - ② 携帯電話・スマートフォンの授業中の教室への持込みの禁止
  - ③ 誹謗中傷行為の禁止、安易・軽はずみなSNSへの投稿の禁止
  - ④ 麻薬、危険ドラッグ、悪徳商法への関わり禁止

### 平成30年度重点目標

教育内容の整備・改善・指導方法について以下の2点を重点とする。

- 学年毎の目標を明確にして、職員の共通認識を持った指導をする。
- 専門職業人の育成につながる指導を強化する。

#### 1) 1学年目標

- ① 学生が学生生活に適応でき、学習習慣を身につけることができる。
- ② 対人関係におけるコミュニケーション能力を高めることができる。
- ③ 看護実践力につながる基礎看護技術の原理、原則を身につけることができる。

#### 2) 2学年目標

- ① 専門領域科目の関連性を意識した学習ができる。
- ② 学校行事等を中心に主体的な企画力、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。
- ③ 自己を取り巻く人々との関わりを通し、社会性を身につけることができる。

#### 3) 3学年目標

- ① 臨地実習において既習の知識を活用できる。
- ② 心身の健康管理を図り、学習の継続ができる。
- ③ 国家試験の合格を目指し、模擬試験等のデータを活用し補強学習を積み重ねる。
- ④ 実習グループにおける役割を通して、チーム活動における専門職業人としての社会性を身につけることができる。

### 5) 医療ビジネス観光情報専門学校

#### 平成30年度基本方針

- (1) ふれあいグループに貢献できる人材養成に全学科で取り組む。
- (2) 平成31年度生募集において広報担当の職員と各学科の教員は一致団結してそれぞれの定員確保の目標達成をめざす。
- (3) 退学者の未然防止と就職率と学生満足度の向上を図る。
- (4) 基礎学力・資格取得率の向上及びマナー、コミュニケーション能力等社会人基礎力の向上を図る。

#### 平成30年度重点目標

- (1) ふれあいグループに貢献できる人材養成

##### ①平成30年度学科の構成

	学科	専攻	定員
1.2年	医療ビジネス学科	医療経営	40
		医療情報管理	
	観光学科	トラベル・交通	40
		ホテル・ブライダル	

## ②平成 30 年度学科カリキュラム

### ○医療ビジネス学科

即戦力となる人材養成のためふれあいグループの電子カルテシステム、医事コンピュータシステムを活用した実践授業を展開できるよう準備する。

医療情報管理専攻において、職業実践専門課程で求められている「実習」をふれあいグループに貢献できる実践的な内容で実施する。

### ○観光学科

手話・サービス介助士の科目を設け、さらに希望者には、昨年度より医療ビジネス学科で実施される「介護職員初任者研修」を選択受講させ、手話や車いすが必要な高齢者に対応できる能力を向上させて、シニアホテル等の受付業務等に対応した人材育成を強化する。

## (2) 学校経営の安定化

### 平成 31 年度入学生の確保

#### (ア)入試制度の改善

高校 3 年生に対する入試制度は、指定校推薦、一般、AO の 3 通りとする。高校既卒者は AO と一般入試の 2 通りの入学方法とする。

#### (イ)ガイダンス・学校訪問

医療ビジネス観光情報専門学校の名称と設置学科の認知度を上げオープンキャンパスへの来校者数を増やすため、ガイダンスと学校訪問に対しては、広報担当者だけでなく全教職員が一丸となって広報活動に取り組む。

#### (ウ)オープンキャンパス

入学者の多数を占める高校 3 年生の近年の進路選択傾向を考慮して、平成 30 年 7 月までを重点期間と捉え、この期間にオープンキャンパスに多くの参加者を集めるために、高校訪問やガイダンスを中心に精力的に広報活動を展開する。又、時期に応じた実施内容や情報発信を行い、内容に変化をつけることで志願者の本校への興味を継続させ出願につなげる。さらに開催に当たっては参加者個々のニーズに応じた臨機応変な対応を心がける。

#### (エ)ホームページ、リスティング広告

アクセスした方が知りたい情報を分かりやすく入手できる内容とする。そのために常に更新を怠らず、学校の行事やオープンキャンパス案内、在校生の活動などの情報発信に努める。

#### (オ)学園内の連携

医療ビジネス学科を中心に学園内の大学及び医療系 3 校との連携を密にした相互補完の考え方を基本に、本校の学園内での存在価値を高める努力を行う。

#### (カ)小中学生への対応

中期的な視野に立って、小中学生に向けた広報活動に取り組む。具体的には神奈川県専修学校各種学校協会主催事業「仕事のまなび場」、「チャレンジスクール」に積極的に参加する。さらに個別に小学校や中学と連携し、本校が扱う分野における職業体験の機会を提供し、児童生徒に早期から本校を認識させる。

(3) 教育内容の整備、改善、指導目標

① ふれあいグループに貢献できる人材の養成

(ア) 授業カリキュラムの整備

- ・平成30年より職業実践専門課程で規定された医療ビジネス学科医療情報管理専攻における実習をふれあいグループで即戦力となる内容で実施する。
- ・昨年導入した介護事務の授業カリキュラムをより充実させる。

(イ) 就職先（配属先）施設との連携

- ・ふれあいグループ施設や関連会社との連携を図り、現場で活躍できる人物像をしっかりと把握してその育成にあたることを継続する。
- ・入職後にミスマッチが起こらないよう施設見学や職場実習などの機会を作り指導強化する。
- ・ふれあいグループの「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念を学生に浸透させる。

(ウ) 基礎学力・社会人基礎力の向上

- ・基礎学力の向上およびマナー、コミュニケーション能力等社会人基礎力の向上を図る。

② 就職率向上を目指して

(ア) 就職実績の向上

i 求人件数の確保

- ・医療情報分野でふれあいグループの就職先に加え、新たな求人企業開拓を継続する。
- ・昨年までの就職実績企業との繋がりをより強固なものとするため積極的に企業訪問する。
- ・ハローワーク・商工会議所・産業振興財団等との連携で、中小企業の求人企業開拓をする。
- ・学内就職ガイダンスを実施する。(年7回を目標)
- ・留学生対象を含む個別企業学内説明会、OB・OG懇談会、講演会、業界セミナーなどの開催を要請し、随時実施する。(年15回を目標)
- ・求人企業向けWebページの充実を図る。

ii 就職・進学活動サポートの充実

- ・1年次後期(10月)より就職対策講座を実施し、就職に関する知識習得(自己分析、企業研究、職種研究、応募書類、面接マナー)を集中的に行う。エントリーシートの書き方から面接の受け方まで指導を徹底する。
- ・入学時(1年次4月)及び進級時(2年次4月)に社会人基礎テストを実施し、進級時には一般常識・SPI模擬試験を実施する。
- ・各種テスト結果に基づき、個別指導計画を作成し、各学生の弱点を克服するための個別サポートを実施する。指導は担任が主体となり、就職担当者と協調して実施する。
- ・ビジネスマナー講座を実施するとともに、日々の生活指導に活用する。
- ・厚生労働省編一般職業適性検査(GATB)を実施して、学生個人の能力と適性を把握する。
- ・入学当初からキャリアカウンセリングを実施し、学生個人のキャリアデザインを明確にする。
- ・就職情報センターが主導する「就活ゼミ」「就職ガイダンス」および学校行事の運営及び経験を通して、「前に踏み出す力」を涵養する。また、ホームルームの時間を活用し、自己理解を促し、生活習慣を改善し、自己管理能力の向上に努める。

- ・インターンシップを積極的に実施し、早期就業と職業意識の醸成を図る。
- ・各学科で必要に応じて学内企業説明会を実施し、就職活動の動き出しの支援をする。
- ・留学生対象の大学進学情報の提供を強化する。

#### (イ) 教育内容の充実

##### i 基礎学力向上指導の徹底

- ・1年生の入学時より社会人基礎テストおよび厚生労働省編 一般職業適性検査（GATB）にて基礎学力の測定をして、各人の基礎能力を把握する。
- ・e-ラーニングを活用した基礎学カトレーニングを実施して、各学生の目標に向け学習進捗を管理・指導する。
- ・毎週基礎学力不足の学生対象に特別指導を実施する。

##### ii 授業内容・方法の工夫の継続

- ・学生の学習状況を常に把握し、補講等必要な対策をタイムリーに随時実施することで、全員進級・卒業を目指す。
  - ・学生に適合した授業展開を工夫する。学生のレベルに合わせ、知識を習得させる試験と自信をつけさせる試験を併用し、学生の意欲を削がないよう授業を進める。
  - ・各学科において早期に就職活動を開始できるように指導内容を工夫する。

##### iii 資格対策の充実

- ・卒業までに学生1人最低1つの資格を取得させる。（全学科）
- ・各学科においてグループに貢献できる人材育成に必要な資格を検討・導入し、取得のための授業カリキュラムを充実させる。
- ・医療ビジネス学科（医療経営専攻）では、全員受験・取得目標資格（診療報酬請求事務能力認定試験、医事コンピュータ技能検定試験、医療秘書技能検定、医療情報技師試験、医療情報基礎知識検定、マイクロソフトオフィススペシャリスト）を設定してタイムリーな特別対策授業を実施する。
- ・医療ビジネス学科（医療情報管理専攻）では、以下の全員受験・取得目標資格を設定してタイムリーな特別対策授業を実施する。
  - 1.開発系：ITパスポート試験、基本情報技術者試験
  - 2.インフラ系：ITパスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、LPIC、CCENT
- ・ホテル・ブライダル系資格（ホテル実務検定、レストランサービス技能検定（国家資格）・ウェディングスペシャリスト・アシスタントブライダルコーディネーター等）の対策を充実させる。
- ・観光系資格（国内旅行業務取扱管理者（国家資格）、国内旅程管理主任者資格、サービス介助士）の対策を充実させる。
- ・その他各種ビジネス系資格試験（マイクロソフトオフィススペシャリスト、簿記、漢字、秘書、ビジネス文書等）の対策を充実させる。

### ③ 学生満足度の向上

#### (ア) キャリア教育の充実

- ・一人一人に能力適性試験の結果を踏まえた、キャリアカウンセリングを実施する。(年間2回以上)
- ・短期就労体験をはじめ、現場見学会や現場体験研修を実施できるよう工夫する。

#### (イ) 学校行事

- ・学校行事を実施する際に、就職活動で必要になる「社会人基礎力」を育成する工夫をする。専任教員が学生の各実行委員会をサポートする。
- ・学校行事に参加することで共同作業をする体験の機会を増やし、仲間作りやコミュニケーション能力の育成と活気ある学校生活を実感できる工夫をする。

#### (ウ) 生活指導

- ・担任の随時面談により、問題の早期発見と対応で、退学・休学を防止する。
- ・出席不良者に対して、担任を中心に、早期対応を実施し、保護者との連携を強化して出席率が向上させ、さらに、皆勤者も増やす。
- ・定例教職員会議での報告により、教職員で学生情報を共有する。(月例)
- ・スクールカウンセラーと連携して、学生のメンタルケアを強化する。(カウンセリングは月2回実施)
- ・事件、事故、犯罪などに巻き込まれないよう普段から継続的に注意を促し、指導を行う。
- ・個人情報の取扱、特に SNS などの利用におけるコンプライアンス意識を高める指導を行う。
- ・留学生の出席管理および校納金管理を強化徹底する。

#### (エ) 道徳教育

「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」というグループの理念に基づき、学校生活全般を通じて、道徳的心情、道徳的判断力、実践意欲・態度などの道徳性を養う。

- ・道徳的心情の育成…道徳的価値を望ましいものとして捉え、善を行うことに喜びを感じる道徳的心情を養う。
- ・道徳的判断力の育成…自分の置かれている現在の場面でどのような考え方や行動をするのが善であり悪であるかを判断する知的な能力を養う。
- ・実践意欲と態度の育成…道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動を取ろうとする実践意欲と態度を養い、積極的に公共マナーを遵守できるようにする。

### ④ 学習環境の充実

#### (ア) 図書室の整備

#### (イ) ハード・ソフトウェア等学習ツールの整備

## 6) みどり幼稚園

### 平成30年度基本方針

ふれあいグループの理念である「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」に基づき、園児一人ひと

りの持っている力を信じ、子どもの心に寄り添い、明るくのびのびとした雰囲気の中で「生きる力」を育み「やる気のある子」「心の豊かな子」になるよう保育・教育活動を行う。乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立を目的としており、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人ひとりが安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねていく。1歳から小学校就学前までの一貫した保育・教育を行っていく。

幼保連携型認定こども園みどり幼稚園の保育・教育目標である

- 1、 丈夫な体を持つ子に
- 2、 正しい考えや行動が出来る子に
- 3、 自発性の高い子に
- 4、 創造力の豊かな子に

を踏まえて教職員は研鑽に努め、指導力の向上をはかり、その成果を保育・教育活動に活かしていく。

### 平成30年度重点目標

○健康・・・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う

いろいろな遊びを行い、十分に体を動かす。

身の回りを清潔にして衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分で行う。

食育を考え、保育士やともだちと一緒に食べることを楽しむ。

丈夫な体づくりを目標に乾布摩擦の励行、体育講師による運動全般の指導を受ける。

○人間関係・・・他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人とかかわる力を養う

自分で出来ることは自分です。

自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。

いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。

友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見いだし、工夫したり協力したりする。

○環境・・・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていく力を養う

身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。

身近な物を大切にする。

自然に触れて生活し、その大きさや美しさ、不思議さなどに気付く。

○言葉・・・経験したことや考えたことなどを自分なりに言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う

保育士やともだちの言葉や話に興味や関心をもち、親しみを持って聞いたり、話したりする。

生活の中で必要な言葉が分かり、使う。

親しみを持って日常の挨拶をする。

絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。

○表現・・・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする  
生活の中で様々な音・色・形・手触り・動きなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。  
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。  
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。  
描く、作ることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。  
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

#### (乳児)

- ・乳児一人ひとりの発育及び発達の状態や健康状態について適切に判断し、対応する。
- ・保護者との信頼関係を築きながら保育を進める。保護者からの相談に応じ、保護者支援に努める。
- ・食事・排泄・睡眠・衣類の着脱・身の回りを清潔にするなど生活に必要な基本的習慣が、身に付くよう配慮する。
- ・安全で安心して様々な遊びができるよう配慮し、活動しやすい環境を整える。

#### (幼児)

- ・クラスの活動だけでなく合同保育や異年齢交流など、学年を超えた保育に取り組む
- ・当番活動を通して、責任をもって行う、協力する、手伝うなど経験する
- ・外遊びや運動を多く取り入れ、健康でのびのびとした活動を行っていく
- ・絵本読み聞かせを行う
- ・誕生児を祝い、成長を共に喜ぶ（月一回の誕生会を開催する）
- ・内科検診・（年2回） 歯科検診・眼科検診（年1回）を実施、1歳児から5歳児の健康管理を行う。
- ・近隣の小学校や保育園と連携し、交流を深め、年長児の小学校入学へと繋げていく  
リズム遊びの共有、小学校探検、ゲームやクイズ、お正月あそび、ボールあそび、教員研修
- ・近隣の中学校の職業体験の受け入れや高校生との交流を行う
- ・ふれあいグループの各施設と連携を計り、協力する  
湘南医療大学、茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科の学生を受け入れ、幼児理解の学習に役立てる  
様々な行事の参加を呼びかける（みどりっこまつり・運動会・お餅つきなど）
- ・食育教育を行う。マニュアルを作成、食事の大切さやマナーを教える。

#### (教職員)

- ・保護者と連携・協力をして園児の安全確保に努める。  
園内の整理・整頓・清潔・清掃を心がける。  
避難訓練を行う（地震1・2・3学期 不審者1・2学期 火災1・3学期）  
非常時に対応できるよう日頃から危機管理を意識し、日々話し合いを行う。
- ・食物アレルギー対応を行う。給食会議月1回
- ・教職員・調理士、栄養士は食物アレルギー研修を受ける（講師は湘南医療大学弓気田先生）

## IV 財政計画

### 1 平成 30 年度予算編成方針

学校法人の経営環境は、18歳人口の減少等の影響もあり、その中でも看護・リハビリ系等の医療系大学は、大学・学部の新設が相次ぎ、毎年増加し学生確保面での競合が一層激しくなっている。さらに、今後の本学園中期計画の状況（平成30年度から平成34年度）までの5か年における固定資産整備計画を踏まえ、中・長期的な収支の均衡を目指した収支予算案の策定が求められている。平成30年度は、法人本部において、湘南医療大学大学院設置準備室、及び医療ビジネス観光情報専門学校介護福祉士養成施設設置準備室における校舎改築費用や人件費等を計上している。また、大学においては、開学4年目の学年進行最終学年となり、文科省に提出している設置計画の確実な整備計画の履行を踏まえ、着実な経営が必要である。平成30年度においては、各大学・専門学校・認定こども園から提出された事業計画等をもとに、以下の内容を基調とした学園全体の事業計画及び収支予算案を作成することとした。

#### (1) 特色ある大学、専門学校、認定こども園作りの推進

質の高い教育研究を行うための取り組みを継続的に実施し、本学園の最大の特色であるふれあいグループの理念に基づく医療人の養成教育並びにグループ病院施設を支援する人材育成に努め、地域医療に貢献する医療従事者（看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、介護従事者、医療事務従事者等）の養成を目指した医療人材教育の更なる充実を図り、大学、専門学校の教育内容の一層の質向上と特色発揮に努めていく。また、ふれあいグループ奨学金制度を拡充し、経済的支援者、及びふれあいグループへの就職を希望する学生に対する支援を継続していく。

なお、医療系大学、専門学校、及び80を超える病院施設を有する持つ強みを生かし、学校間及び学校施設間の連携を強化に進めていく。

#### (2) 計画性を持った施設設備の整備

大学を除き、専門学校、認定こども園は、開学後10年以上が経過し、校舎や学生寮の施設設備の修繕が必要となっているほか、平成31年度の新設大学院、新設学科等教育拡充計画にかかる設置費用については、自己資金に加えて、ふれあいグループの財政支援を受けて、計画的な整備を行う。

なお、固定資産の整備に当たっては、経理規程に基づき、一般競争入札制度、複数社の見積書の活用等によりコストの削減を図ることとする。

#### (3) 中・長期計画に沿った事業展開

法人本部及び各大学、専門学校、認定こども園では、学生確保、教育の質の強化、及びふれあいグループへの人材支援にかかる教育事業の運営を基本として、更なる教育研究事業の進歩・発展に取り組んだ事業運営を実施する。

### 2 主な予算計上

#### ア 湘南医療大学4年次経常経費：

- ・ 開設4年次に必要な教育用備品 5,000 千円及び図書費 8,382 千円ならびに共同研究経費 6,000 千円の計上

- ・ 認定看護師研修センター（認定看護師養成課程）の設置並びに大学学年進行による教員増等に要する人件費及び経常経費の増加

イ 校舎改築費：

- ・ 湘南医療大学の講義室及び大学院講義室の使用にサウス地下1Fフロアを長期借用し、改築する工事費用に167,648千円の計上

ウ 大学院設置にかかる助産師養成教育用備品（28,839千円）及び図書費(8,811千円)を計上

エ 茅ヶ崎看護専門学校

- ・ エアコンの新しい室外機の設置工事として 12,000千円を計上

オ 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校

- ・ 本館3階の温度調整のための耐熱材補強工事費として 12,000千円を計上

カ 下田看護専門学校

- ・ 学生寮の耐震補強のための外壁工事費として 12,000千円を計上

キ 医療ビジネス観光情報専門学校

- ・ 介護福祉士養成施設を設置する為、校舎を改築し、介護実習室、入浴実習室等の実習室及び更衣室等の整備費（30,000千円）、介護関係教育用備品費(6,000千円)、図書整備費用(2,000千円)を計上

ク 認定こども園みどり幼稚園

- ・ 暖房設備の取り換え設置費用として 5,000千円、門扉改修工事費用として 500千円を計上

### 3 予算案の概要

#### ア 資金収支予算の概要

資金収支計算書は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入および支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものである。

平成30年度の資金収支予算は、資金収入（学生生徒納付金、手数料収入、寄附金収入、補助金収入等）の合計が、前年度繰越支払資金 3,160,201千円を含み、5,925,039千円を計上しました。

※ 湘南医療大学学費収入増により、前年度より 243,175千円の学生生徒納付金収入の増収を見込んでいる。

資金支出（人件費、教育研究経費、管理経費、施設設備費等）の合計は、2,702,589千円で、この結果、差し引き 3,222,449千円が次年度繰越支払資金となり、前年度繰越支払資金 3,160,201千円との差額は 62,248千円の増となり資金収入の増加が見込まれる。

#### イ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収支は、単年度の事業活動における収支内容と均衡状態を明確にし、経営状態を表すもので、法人に帰属する借入金等の資本的収入に充てる額と固定資産等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上するものである。

平成30年度の事業活動収支予算は、事業活動収入（学生生徒納付金、手数料、寄附金、補助金等法人に教育活動のみに係る収入）は、2,741,043千円を計上した。また、事業活動支出は、人件費、教育研究経費、管理経費等で、2,435,243千円の予算を編成した。その他、教育活動外収入は、3,610千円、教育外活動支出では、借入金利息支払いで62,102千円の支出を計上した。

それにより、基本金組入前当年度収支差額は、254,507千円の収入超過を見込んでいる。尚、基本金組入額（施設設備等の積み立て等に充当）は、455,740千円を計上予定である。

#### ウ 主要財務指標

比率名	算出方法	平成29年度(予算)	平成30年度(予算)
人件費比率	人件費/経常収入	51.2%	46.2%
人件費依存率	人件費/学生生徒納付金	61.7%	54.8%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	30.1%	30.3%
管理経費比率	管理経費/経常収入	13.3%	12.3%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	4.0%	9.0%
基本金組入後収支比率	事業活動支出/事業活動収入-基本金組入額	117.6%	109.1%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	83.0%	84.3%
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	3.3%	2.9%
補助金比率	補助金/事業活動収入	7.2%	7.5%
減価償却額比率	減価償却額/経常支出	11.4%	11.3%
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	4.0%	9.0%
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額/教育活動収入計	5.3%	11.1%
基本金組入率	基本金組入額/事業活動収入	18%	17%

経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入 計

経常支出＝教育活動支出＋教育活動外支出 計

## V 施設・設備計画

平成30年度の主な施設・設備計画については下記のとおりである。

	事項	事業費	実施時期
湘南医療大学	4年次経常経費（教具・校具）	11,000千円	平成30年4月
	助産師養成教育用備品	28,839千円	平成31年3月
湘南医療大学	4年次経常経費（図書）	8,382千円	平成30年4～11月
	大学院設置(図書)	8,811千円	平成31年3月
湘南医療大学	シニアホテル東戸塚サウスウィング 賃借部分改築工事	167,648千円	平成30年8月～平成31年2月

※その他、各学校の修繕計画、教育備品の購入計画等に基づき、配備する。

## VI 生涯学習事業及び受託事業計画

ふれあい医療福祉研修センター（別添資料）

神奈川県内の医療福祉関係従事者並びにふれあいグループ職員の希望者を対象

看護系：看護師実習指導者講習会、認知症看護研修

福祉系：喀痰吸引等研修、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護福祉士国家試験対策講座、ケアマネ試験受験対策講座、医療的ケア教員講習会

社会福祉系：社会福祉専攻科、社会福祉士実習指導者講習会、社会福祉士国家試験対策講座

医療事務系：医療事務講座（初級・中級）

平成30年度は、湘南医療大学にて、認定看護師養成研修課程（認知症看護分野）を開講。

## VII 監査計画

平成30年度監査計画に基づき、会計監査、監事監査及び内部監査を実施するとともに、監事、会計監査人との連携を強化する。また、監査対象の監査報告に対する意見聴取を行い、今後の監査に活かす。

### 1 監査の対象

業務監査：湘南医療大学、医療ビジネス観光情報専門学校

会計監査：公認会計士と連携

## 2 監査の方法

- ・理事会、評議員会等の主要な会議へオブザーバーとして出席
- ・湘南医療大学および医療ビジネス観光情報専門学校  
学校、園の業務内容を主として、監事が学長、学校長と面談しヒアリング形式で実施する。
- ・公認会計士と監事が面談による会計監査を実施する。

## 3 監査重点項目

- ・業務監査（ヒアリング内容）

湘南医療大学	医療ビジネス観光情報専門学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己点検・評価の取組確認</li> <li>②受験生の確保方法と結果の適切性の確認</li> <li>③学生の留年、除籍、中途退学者の状況把握と対策の確認</li> <li>④学生に対する進路・指導状況の確認</li> <li>⑤各教員の講義担当コマ数の確認</li> <li>⑥講義の休講と補講の関係の確認</li> <li>⑦学生・保護者の満足度の確認</li> <li>⑧学部学科の親増設状況の確認</li> <li>⑨教育・研究における重点分野の確認</li> <li>⑩教員の外部資金獲得状況の確認</li> <li>⑪教職員の研修（FD・SD等）受講状況の確認</li> <li>⑫各設置学校の事件、事故、訴訟状況の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生募集状況の確認</li> <li>②学科運営状況の確認</li> <li>③就職指導状況の確認</li> <li>④学生支援状況の確認</li> <li>⑤学科新設状況の確認</li> </ul>

- ・会計監査（ヒアリング内容）

学校法人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理担当者による月次会計監査の状況報告</li> <li>・会計士による各校実査報告</li> <li>・資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、活動区分資金収支計算書、事業活動収支計算書、事業活動収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表等の書類を閲覧しながら、公認会計士から平成 29 年度の予算執行状況等の確認を実施する。</li> </ul>

#### 4 監査の実施時期

- 定期監査（業務監査） 内部監査終了後平成30年12~3 月の間に実施。  
内部監査（平成 30年 8~9 月頃予定）は、内部監査班が実施。  
（会計監査） 平成31 年4~5 月公認会計士、内部監査班と連携して実施。

#### 5 監査報告書の作成

- 監査報告書（業務監査）平成 31 年 3 月までに報告する  
（会計監査）平成 31 年 5 月

#### 別資料

##### タイプ I 「建学の精神を生かした大学教育の質向上」 1 基本的事項に係る評価

###### (1) 全学的な教学マネジメント体制の構築

- 1 ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーの点検・評価
- 2 学長を中心とした全学的な教学マネジメント体制の構築
- 3 I R担当部署の設置及び専任の教職員の配置
- 4 S Dの取組状況

###### (2) 教育の質向上に関するP D C Aサイクルの確立

- 5 準備学習に必要な時間等のシラバスへの明記
- 6 シラバスの記載内容の適正性について、担当教員以外の第三者によるチェックの実施
- 7 学生の学修時間の実態及び学修行動の把握の組織的な実施
- 8 学生による授業評価結果の活用
- 9 教員の評価制度の設定
- 10 F D実施のための組織（委員会等）の設置及び教員の参加状況
- 11 アクティブ・ラーニングによる授業の実施

##### 2 多様な取組に関する評価

- 12 履修系統図又はナンバリングの実施
- 13 オフィスアワーの設定
- 14 G P A制度の導入、活用
- 15 学生の学修成果の把握
- 16 1年間あるいは1学期間に履修科目登録ができる単位数の上限の設定
- 17学内の教育改革に取り組む教員又は組織（学部等）を財政的に支援するための予算の設定
- 18 大学ポートレートで発信する情報の検討・見直しの実施

### 3 高大接続改革の推進

- 19 アドミッション・ポリシーにおける求める学生像の明示
- 20 能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選抜の実施
- 21 入学者選抜体制の充実強化
- 22 多様な背景を持つ受験者の受け入れ
- 23 高等学校教育と大学教育の連携強化

## 平成30年度資金収支予算書

平成30年 4月 1日から  
平成31年 3月31日まで

(単位:円)

収入の部	
科 目	予 算
学生生徒等納付金収入	2,314,159,000
授業料収入	1,452,380,000
入学金収入	124,150,000
実験実習料収入	235,580,000
施設設備資金収入	436,740,000
諸費収入	59,000
基本保育料収入	39,600,000
在籍料収入	1,350,000
付属教育事業収入	24,300,000
手数料収入	47,014,000
入学検定料収入	35,924,000
試験料収入	10,385,000
証明手数料収入	705,000
諸費収入	0
専攻科検定料収入	0
実習費負担金収入	0
寄付金収入	80,000,000
特別寄付金収入	0
一般寄付金収入	80,000,000
補助金収入	207,595,000
都道府県補助金収入	86,546,000
市町村補助金収入	1,049,000
施設型給付費収入	120,000,000
資産売却収入	0
その他の資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	51,800,000
補助活動事業収入	42,300,000
付帯事業収入	2,500,000
教材料収入	3,500,000
業務受託収入	0
収益事業収入	3,500,000
受取利息・配当金収入	110,000
その他の受取利息・配当金収入	110,000
雑収入	43,675,000
施設設備利用料収入	17,260,000
研究関連収入	1,415,000
その他の雑収入	25,000,000
借入金等収入	0
長期借入金収入	0
前受金収入	1,208,570,000
授業料前受金収入	738,770,000
入学金前受金収入	130,000,000
実験実習料前受金収入	119,600,000
施設設備資金前受金収入	220,200,000
教材料前受金収入	0
諸費前受金収入	0
実習費負担金前受金収入	0
その他の収入	46,639,000
前期末未収入金収入	24,139,000
貸付金回収収入	0
預り金受入収入	22,500,000
仮払回収収入	0
敷金回収収入	0
資金収入調整勘定	△ 1,234,724,000
期末未収入金	△ 24,139,000
前期末前受金	△ 1,210,585,000
前年度繰越支払資金	3,160,201,074
収入の部合計	5,925,039,074

支出の部	
科 目	予 算
人件費支出	1,252,460,000
教員人件費支出	994,500,000
職員人件費支出	254,000,000
役員報酬支出	3,960,000
退職金支出	0
教育研究経費支出	556,392,000
消耗品費支出	63,200,000
光熱水費支出	51,000,000
旅費交通費支出	19,500,000
奨学費支出	51,600,000
福利費支出	24,619,000
通信費支出	7,094,000
印刷製本費支出	9,280,000
修繕費支出	42,450,000
損害保険料支出	7,211,000
賃借料支出	33,100,000
報酬委託手数料支出	172,918,000
保健衛生費支出	1,050,000
行事費支出	6,110,000
実習費支出	24,090,000
研修費支出	2,800,000
教材費支出	8,020,000
給食費支出	17,000,000
研究助成費支出	15,000,000
雑費支出	350,000
管理経費支出	305,492,800
消耗品費支出	24,650,000
光熱水費支出	8,900,000
旅費交通費支出	6,950,000
福利費支出	10,750,000
通信費支出	14,780,000
印刷製本費支出	18,250,000
修繕費支出	10,974,000
損害保険料支出	2,650,000
賃借料支出	12,146,000
公租公課支出	10,278,000
広報費支出	84,105,800
諸会費支出	5,543,000
渉外費支出	115,000
報酬委託手数料支出	84,580,000
負担金支出	45,000
保健衛生費支出	0
行事費支出	0
実習費支出	50,000
研修費支出	430,000
教材費支出	1,550,000
給食費支出	4,200,000
車両燃料費支出	850,000
雑費支出	3,696,000
借入金等利息支出	62,102,000
借入金利息支出	62,102,000
借入金等返済支出	104,183,000
借入金返済支出	104,183,000

科 目	予 算
施設関係支出	290,050,000
建物支出	288,150,000
構築物支出	1,900,000
建設仮勘定支出	0
設備関係支出	116,850,000
教育研究用機器備品支出	83,400,000
管理用機器備品支出	12,600,000
図書支出	20,850,000
車両支出	0
資産運用支出	0
その他の支出	133,082,950
前期末未払金支払支出	131,858,000
預り金支払支出	0
その他の固定資産支出	60,000
預託金支出	0
前払金支払支出	1,164,950
仮払金支払支出	0
予備費	(15,000,000)
資金支出調整勘定	△ 133,022,950
期末未払金	△ 131,858,000
前期末前払金	△ 1,164,950
翌年度繰越支払資金	3,222,449,274
支出の部合計	5,925,039,074

事業活動収支予算書

平成30年 4月 1日から  
平成31年 3月31日まで

		科 目	予 算
事業活動収入の部		学生生徒等納付金	2,314,159,000
		授業料	1,452,380,000
		入学金	124,150,000
		実験実習料	235,580,000
		施設設備資金	436,740,000
		諸費	59,000
		基本保育料	39,600,000
		在籍料	1,350,000
		付属教育事業収入	24,300,000
		手数料	47,014,000
		入学検定料	35,924,000
		試験料	10,385,000
		証明手数料	705,000
		諸費	0
		専攻科検定料	0
		実習費負担金	0
		寄付金	80,300,000
		特別寄付金	0
		一般寄付金	80,000,000
		現物寄付金	300,000
		経常費補助金等	207,595,000
		国庫補助金	0
		都道府県補助金	86,546,000
		市町村補助金	1,049,000
		施設型給付費補助金	120,000,000
		付随事業収入	48,300,000
		補助活動事業収入	42,300,000
		付帯事業収入	2,500,000
		教材料収入	3,500,000
		受託業務収入	0
		雑収入	43,675,000
		施設設備利用料収入	17,260,000
	研究関連収入	1,415,000	
	その他の雑収入	25,000,000	
	教育活動収入計	2,741,043,000	

	科 目	予 算
教育活動収支	人件費	1,267,460,000
	教員人件費	994,500,000
	職員人件費	254,000,000
	役員報酬	3,960,000
	退職金	0
	退職給与引当金繰入額	15,000,000
	教育研究経費	830,532,000
	消耗品費	64,100,000
	光熱水費	51,000,000
	旅費交通費	19,500,000
	奨学費	51,600,000
	福利費	24,619,000
	通信費	7,094,000
	印刷製本費	9,280,000
	修繕費	42,450,000
	損害保険料	7,211,000
	賃借料	33,100,000
	報酬委託手数料	172,918,000
	保健衛生費	1,050,000
	減価償却額	273,240,000
	行事費	6,110,000
	実習費	24,090,000
	研修費	2,800,000
	教材費	8,020,000
	事業活動支出の部	給食費
研究助成費支出		15,000,000
雑費		350,000
管理経費		337,251,800
消耗品費		25,650,000
光熱水費		8,900,000
旅費交通費		6,950,000
福利費		10,750,000
通信費		14,780,000
印刷製本費		18,250,000
修繕費		10,974,000
損害保険料		2,650,000
賃借料		12,146,000
公租公課		10,278,000
広報費		84,105,800
諸会費		5,543,000
渉外費		115,000
報酬委託手数料		84,580,000
負担金		45,000
保健衛生費		0
減価償却額		30,759,000
行事費		0
実習費		50,000
研修費		430,000
教材費		1,550,000
給食費	4,200,000	
車両燃料費	850,000	
雑費	3,696,000	
徴収不能額等	0	
徴収不能額引当金繰入額	0	
徴収不能額	0	
教育活動支出計	2,435,243,800	
	教育活動収支差額	305,799,200

教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算
		受取利息・配当金	110,000
		その他の受取利息・配当金	110,000
		その他の教育活動外収入	3,500,000
		収益事業収入	3,500,000
	教育活動外収入計	3,610,000	
	事業活動支出の部	科 目	予 算
		借入金等利息	62,102,000
		借入金利息	62,102,000
		その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計		62,102,000	
教育活動外収支差額			△ 58,492,000
経常費差額			247,307,200
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算
		資産売却差額	0
		不動産売却差額	0
		その他の特別収入	7,200,000
		現物寄付	7,200,000
		施設設備補助金	0
		過年度修正額	0
	特別収入計	7,200,000	
	事業活動支出の部	科 目	予 算
		資産処分差額	0
		建物除却差額	0
		教育研究用備品除却差額	0
		管理用備品除却差額	0
		図書除却差額	0
		車両除却差額	0
その他の特別支出		0	
過年度修正額	0		
特別支出計	0		
特別収支差額			7,200,000
[予備費]			(15,000,000)
基本金組入前当年度収支差額			254,507,200
基本金組入額合計			△ 455,740,000
当年度収支差額			△ 201,232,800
前年度繰越収支差額			△ 306,226,944
基本金取崩額			0
翌年度繰越収支差額			△ 507,459,744
(参考)			
事業活動収入計			2,751,853,000
事業活動支出計			2,497,345,800

学校法人湘南ふれあい学園 平成30年度研修事業計画(予定)

系統	看護系			介護系							社会福祉系				事務系		
	事業名	看護師実習指導者講習会	認知症看護研修	認定看護師養成課程(認知症看護分野)	介護職員初任者研修	介護福祉士実務者研修	喀痰吸引等研修	喀痰吸引等研修(実地研修のみ)	介護福祉士国家試験対策講座	ケアプラン作成クラス	介護福祉士実習指導者講習会	社会福祉専攻科(通信)	社会福祉士実習指導者講習会	社会福祉士国家試験対策講座	ケアマネ試験対策講座	医療事務講座(初級)	医療事務講座(中級)
実施主体	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	湘南医療大学認定看護師研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校(附帯事業)	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校(附帯事業)	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校(附帯事業)	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター	ふれあい医療福祉研修センター
対象	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内	グループ内	グループ内外	グループ内外	グループ内外	グループ内	グループ内外	グループ内	
期日	H30.8月～11月	H30.9月	H30.6月～H31.3月	第1回：H30.5月～9月 第2回：H30.11月～H31.3月 町田校：H30.7月～H31.1月	H30.2月～7月 H30.4月～9月 H30.7月～12月	H30.10月～H31.2月	随時	H30.10月～11月	H30.9月～10月	H30.7月～8月	毎年4月～翌年9月末	H31.2月～3月	H30.7月～12月	H30.8月～9月	H30.7～11	H30.10～H31.2	
日数	243時間	2日	665時間	17日(講義15日、実習2日)	6ヶ月	10日(講義8日、演習1日、実習1日)	2日(手順確認1日、実習1日)	3日	2日	4日	1年6ヶ月	2日	10日	2日	5ヶ月	12日	
場所	湘南医療大学	湘南医療大学	湘南医療大学	講義：研修センター実習：湘南シルバークーガーデンほか	講義：研修センター医療的ケア：研修センター実習：茅ヶ崎新北院ほか	講義：研修センター実習：茅ヶ崎新北院ほか	手順確認：研修センター実習：茅ヶ崎新北院ほか	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	研修センター	
受講料	80,000円(テキスト代別)	6,000円	入学検定料：50,000円 入学金：100,000円 授業料：900,000円 (教科書、保険料等別)	60,000円	無資格者：125,000円 初任者研修：105,000円 基礎研修、1級：30,000円	100,000円(テキスト代別)	50,000円	グループ職員：3,500円 グループ外職員：3,800円	3,000円	15,000円	実習必修者：350,000円 実習免除者：250,000円 (テキスト代別)	8,000円(テキスト代別)	グループ職員：16,500円 グループ外職員：24,000円	3,000円	30,000円	37,500円	
定員	40名	20名	15名	20名×3	30名×3	15名	5名程度	15名	15名	20名	80名	20名	30名	20名	20名	20名	
H29実績	19名	38名	※H30新規事業	第1回：15名 第2回：17名 町田校：9名	第1回：28名 第2回：21名	※中止	8名	24名	16名	※H30新規事業	1年生：61名 2年生：56名	11名	21名	11名	21名	13名	
取得資格	看護師実習指導者講習会修了	認知症看護研修修了	認定看護師教育課程修了	介護職員初任者研修修了	介護福祉士国家試験受験資格	喀痰吸引等研修修了	喀痰吸引等研修修了	—	—	介護福祉士実習指導者講習会修了	社会福祉士国家試験受験資格	社会福祉士実習指導者講習会修了	—	—	ふれあい医療事務管理士(初級)	ふれあい医療事務管理士(中級)	
助成金						人材開発支援助成金活用										人材開発支援助成金活用	